

令和5年度 教育目標

1 めざす生徒像

大学が掲げる「日本大学教育憲章」のもと、日本大学の教育理念である「自主創造」の精神に従い、「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」ことができる「自主性を備えた人材」の育成を目指す。また、「知育・徳育・体育」をバランスよく養い育て、生徒一人ひとりの「高き志」を実現できるきめ細かな教育を目指す。

2 教育目標及び教育内容・教育活動

教育目標(教育のねらい)	→	教育内容・教育活動
① 高大一貫教育の推進と、高大接続改革の実践	→	高大接続改革の中で高等学校教育に求められる「学力の3要素」である ① 知識・技能の確実な習得 ② 思考力, 判断力, 表現力 ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を念頭に置いた学習活動を実践する。
② 「日本大学基礎学力到達度テスト」に対応した教育活動を行う。特進コースは「大学入学共通テスト」及び「難関大学」に対応した教科指導を実施	→	3コースの特性と生徒の進路希望を考慮しながら、 「日本大学基礎学力到達度テスト」の傾向を踏まえた上で教科指導 を行う。特進コースは 「大学入学共通テスト」及び「難関大学」の設問別分析等 を行い、入試の傾向と概要を把握し学習に取り組む。
③ 新学習指導要領に対応した学の達成度を測るための評価方法を見直す。※観点別評価の導入(3観点をバランスよく評価する)	→	観点別学習状況の評価 は「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理し、学習の過程や成果も含め評価する。学力の向上, 人間性の涵養に努める。
④ ICT 教育(情報通信技術を活用した取り組み)の発展的な推進	→	ICT教育 をより一層推進し、 主体的・対話的で深い学び を実現するため、教育情報機器を積極的に活用し、生徒の学習意欲の喚起と学習効果の向上に努める。
⑤ 自ら学ぶ心を育成	→	各科目の「日々の学習」、 「シラバス」に基づいた、学習の動機付けを適切に行い、学習意欲を高める。 また、予習・復習・課題等についても、主体的に取り組む習慣が身に付くように学習活動を実践する。
⑥ 探究学習を推進し、生徒の自立心, 社会性を養う	→	探究学習等を通して、SDGs の達成に向けた持続可能な開発のための教育(ESD)を推進する。
⑦ 現状のコース制度の改善・充実に向けて取り組む	→	現状の3コース制度の存在する課題に取り組み、改善・充実を図り、学習活動を実践する。
⑧ 教員は研鑽に励み、教育改善のPDCA サイクル等を構築する	→	教職員相互の授業参観の継続と各種研究会への参加を促し、 教育改善のPDCA サイクルを構築 する。
⑨ 学校生活での健康・安全に配慮する	→	生徒の動向について常に注意を払い、不測の事態が起きないように心がける。問題が生じた場合、担当者会議等を開催し、情報を共有し、共通理解のもとで組織的に指導を行い対応にあたる。